

障害者福祉施設における研修(現任訓練)の体制整備についての研究

浜松協働学舎根洗寮

〒433-8108 静岡県浜松市北区根洗町 681 番地の 5

助成事業の概要

実施目的

施設福祉から地域生活支援へとその転換中心を越えようとする時代に、入所施設の新しい役割を担う人材育成が急務であることから、施設の研修の体系のあり方を再検討し、時代のニーズに合った研修の内容と方法を開発することを本事業の目的とした。

時期および内容

- ・学識経験者を交えての勉強会の開催：7 月（愛知教育大学増田樹郎教授）1 月（NPO レッツ久保田翠理事長）
- ・研究スタッフによる定期的な検討会・研究会の開催（8 月～1 月）
- ・先駆的研修体系を実施している施設の視察、先行研究資料収集（8 月～12 月）
- ・スタッフの人材育成研修への参加（ファシリテーター研修：6 月）
- ・スタッフを対象とした実技研修（ファシリテーション演習：10 月・スーパービジョン演習 12 月）
- ・研修資料（PPT データ）とテキストの作成（1～2 月）

事業の成果

目的達成度

・目的達成度は計画に対して 70%程度であったが、施設の研修の体系を各職域ごとに課題を示し

つつ明示することができた。

得られた成果

・新しい時代の入所施設の役割を考えると、地域の関係機関との連携や社会資源の動員・開拓による支援実践が不可欠であり、支援者には新しい支援の枠組みと援助方法の大胆な転換が厳しく迫られているが、本研究を通して研修の各領域と課題ごとに「利用者主体」「本人中心」を基礎においた研修内容として整理することができた。また福祉サービスが利用契約制度になり個別的サービス提供は遂行されるようになったが、ケアはその結果を報酬という形で回収する「作業」になりつつあることも否めない。このような時期に愛知教育大学増田樹郎教授や NPO レッツ久保田翠理事長らより「福祉臨床の哲学」の視点を学ぶことができたことは、支援者にとっては大切な指針となった。

・本研究事業では、本人主体・尊厳の尊重を引き出す各分野での研修ツールを得ることができたが、本人主体、尊厳の尊重を基本とした各分野での研修ルールを得ることができた。次年度ではこの成果物を活用し職場内研修に活用していきたい。

・幹部職員にとっては後進の育成指導に対する目的意識が向上したことも大きな成果である。

・本研究に参加したスタッフの感想は研究報告書

に掲載してあるが、ケア実践における研修とは、法律や制度を知る・技術やテクニックを覚えることにとどまらず、ケアの場そのものがきわめて発見的そして実際的であること、その奥の深さを参加したスタッフで共有することができた。

課題

・施設の方向性としては積極的に地域移行をすすめているが、施設支援と地域生活支援の比較検討、職員間のグループホームやケアホームの実践的理解、地域生活支援の基本的考え方の共通理解、地域生活支援の具体的な展開の方法論等については急務の課題であったが、系統だって研究作業を進めることができなかった。地域連携、ネットワーキング（法律、制度、社会資源、地域自立支援協議会、相談支援事業の活用、アウトリーチ、コミュニティソーシャルワークの理解等）の展開の戦略も含めて研究開発を行ってきたい。

・OJTを通じた職員間の成長を記すことができるような新人研修テキストを作成することも当初の目標としたが、完成には至らなかった。次年度はぜひとも完成させたい。

今後の展開

・本研究事業では、本人主体、尊厳の尊重を基本とした各分野での研修のルールを得ることができた。この成果物を活用し、次年度からの人材育成に活用していきたい。特に重点的に学んだスーパービジョン、ファシリテーションについては、日常の会議、ケース検討会、研修等で積極的に活用し、そのスキルを高めていきたい。

・これまで従来外部講師を招くか、外部研修に職員を派遣しなければならなかった研修（コミュニ

ケーション技法、スーパービジョン等）については、施設職員が講師を担当して施設内 OFFJT を企画できるようになったと思う。学んだ研修の内容やスキルを伝達することで、それぞれの職員が「講師」となって職員間で学び合う施設研修の伝統を作っていきたい。また、この事業の成果を地域連携の場においても積極的に活用していきたい。